

仙台市秋保ワイナリー視察報告

渡 部 純

仙台市秋保ワイナリー視察報告

2015年10月7日
ワイン法研究会

渡部 純

宮城県のワイナリー

- ・ 山元町(太平洋岸で福島県との県境)に唯一あったものが震災で壊滅
- ・ 仙台市太白区秋保町に、12月にオープン
- ・ 代表毛利親房氏



秋保町とは

- ・ 仙台駅から車で西に30分ほど
- ・ 温泉地として有名(「仙台の奥座敷」と称する)
- ・ もともとは、秋保町であったが、仙台市が1989年に政令指定都市になる際、合併された

なぜワイナリーを？

- ・ 震災からの復興プロジェクトとして構想
- ・ 特産品をワインで応援
ー 例えば「牡蠣とワイン」
- ・ 毛利氏はもともとは設計事務所勤務。復興のためのいろいろな会合に出る中で、自分でやることを決意。
- ・ イタリアなどで修行していた青年がフェイスブックをみて参加、醸造部門の責任者に



なぜ秋保に

- 当初山元町での復興を考えたが、また津波が来たらどう責任をとるという地元の声があった。
- 適地を探している間、たまたま、秋保にいる知人に会い、相談したところ、仙台市のたばこ試験場だった土地が耕作放棄地になっていると聞く

土地

- 耕作放棄地であったが、もとは畑なのですぐ使えるようになった。
- 隣接地で木の生えているところも一部伐採して開墾した
- 友人の父親が秋保の連合町内会長で、地権者に口をきいてもらうことが出来た
- 南斜面。東西に風通しがよい土地。



宮城のワイン作りの拠点を目指す

- 宮城県内でも、ブドウを作りたいとかワイナリーを作りたいという声がいくつもある
- 委託醸造を引き受けること、また、ワインアカデミーをつくることを構想
- 県内でとれるヤマブドウやリンゴを用いたもの

規模

- 去年、1200本の苗木を植え、今年もまた植えた。
- 今年は、山梨のブドウでワインの仕込みに入っている
- 最終的には3万6千本の製造が目標
- 秋保でもワイン特区をとってほしいと考えている

展望

- 当該地から1.5km離れたところに2haの耕作放棄地があり、そこにブドウを植える
- そこを中心にした秋保ファーマーズビレッジ構想
 - 他の野菜を作る
 - RV施設も



秋保という土地

- 東北でも有数の温泉地（仙台から近いという利点）
- →旅館協会主催でソムリエを招く会など
- 仙台市民にとっては芋煮会でなじみがある
- 来年5月にはG7財務相会議が開かれる（復興のシンボリック的意味合い）

期待度

- 注目度は高い（来年1月、ハーヴァードのビジネススクールのワークショップも）
- 復興関連の複数の資金の支援
 - 新設の割には規模が大きい
- コンサルタントは、マザーバインズ。
- 観光客（年間120万人）、市内・ホテルの飲食店をターゲットにしている

可能性

- ブドウは今のところ未知数（苗木もたりない）
- 湿度